

ACE 人権通信



人権教育・啓発通信：「エース」
発行：阿南中学校PTA家庭・人権教育部
2026年8月20日（木）
文責：人権教育主事 吉野 有佳

毎日、暑い日が続いていますが、みなさんいかがお過ごしでしょうか。出勤すると、グラウンドからは暑さにも負けない元気なあいさつが聞こえてきます。ほとんどの部活動では、3年生が引退し、新チームとして活動しています。1、2年生は3年生が残してくれたものを引き継ぎ、チームをさらに成長させていってください。3年生は自分の進路に向かってがんばるときですね。仲間とともに励まし合いながら進んでいってください。今月の人権通信は、市民講座に参加してくださった保護者の方の感想、阿南市中学校人権に関する意見発表会に参加しての感想などを載せたいと思います。また、人権通信を読み、家庭でも人権について話し合ってみてください。



◇阿南市人権教育・啓発市民講座に参加して

6月23日に阿南市防災減災・危機管理アドバイザーの青木正繁さんによる「防災から考える人権について～要配慮者視点での避難所運営～」と題した講演があり、家庭人権教育部の方が参加していただきました。

今回の講座で、災害時の避難所では要配慮者を優先する空間作り、また、男女共同参画の視点から女性専用スペースを確保する配慮が必要であることを学びました。（藤井 麻美さん）

私は避難場所は安全な場所であれば十分だと思っていました。でも高齢者、障がい者、妊婦など色々な人が集まる場所では、全員が同じ環境で過ごせる訳ではなく、それぞれに必要な配慮があるということがわかりました。また、私は身を守る時はダンゴムシのポーズがいいと聞いていましたが、今はカエルポーズになっていると知りおどろきました。たしかに状況を把握する為には頭を守りながらも周りがよく見えるということは大事だと思いました。

今回の人権学習では「防災から考える人権」をテーマに要配慮者への支援や男女参画の視点を取り入れた避難所運営について学びました。特に「正しく恐れ、正しく備える」という言葉が印象に残りました。災害時にはまず自分の命を守る行動をとることが大切です。そのためには避難場所【まず逃げる場所】と避難所【避難後生活する場所】の違いを知り、普段から出かけた先でも避難場所や避難所を確認する習慣が自分や大切な人の命を守ることに繋がると感じました。子ども達も中学生となり行動範囲も広くなりました。出かけた先で「避難口と避難場所をみとう！」が当たり前になるように、まずは家族から始めようと思いました。（小山 彩さん）

『防災と人権ってどう関係するんだろう？』実際に被災生活を送ったことがない私は単純に演題に興味をもった。講師の青木さんは慣れた口調でこれまでに活動してこられた被災地の様子や東日本大震災から後の避難所を比較して説明して下さった。とても分かりやすかった。パーソナルスペースの確保が、災害関連死の抑制に効果があると理解できた。自分や周囲のみんなが被災者になった時、今日の知識をきっかけに要配慮者を優先することや周囲に気軽に『声かけ』ができる自分でありたいと思う。（武谷 浩子さん）

親が高齢者となり、他人事ではありませんでした。災害が起きた時、人権が尊重され安心して過ごす事ができる避難所の重要性を学ぶ事ができました。（井先 奈緒子さん）

◇阿南市中学校人権に関する意見発表会

7月29日に那賀川中学校で阿南市中学校人権に関する意見発表会が行われました。本校からは、3年生西條珠寧さんが「手話サークルでの学び」という作文を読んでもくれました。親から誘われ、小学3年生から通い始めた「手話サークル」。初めは不安な気持ちもありましたが、手話を通して、コミュニケーションがとれることの楽しさや思いが伝わる喜びを実感することができたという内容です。また、阿南市の中学生の作文発表も聞きました。言葉の大切さや人を見た目で判断してはいけないことなど、さまざまな視点からの作文があり、とても勉強になりました。

発表会後には、人権かるた取りをして交流会を行いました。「阿南市中学校人権かるた」をつくられた方の思いを直接聞き、和やかな雰囲気では行われました。阿南中学校でも9月に人権部主催の校内人権かるた取り大会を行う予定です。人権かるたを通して、一人ひとりがそれぞれの人権課題について考える機会になればと思います。



私はこの作文発表会で自分ではあまり考えたことのないような意見を聞いて、改めて学び、考えることができたので、とてもよい機会になりました。そして、もっと人権のことについて考えていくべきであると感じました。（3年 西條 珠寧さん）

言葉のもつ力、まわりの人たちと助け合って生きていくことの意味など、いろいろな視点から自分の思いや考えを発表していて、どの作文もすばらしかったです。人権かるたができるまでの話も感動しました。（西條 満寿美さん）

◇デートDV防止教室

8月5日に1年生を対象としてデートDV防止教室を行いました。阿南市人権擁護委員協議会の方が来てくださり、お話をしてくれました。身体的暴力、精神的暴力、経済的暴力、性的暴力について詳しく説明があり、生徒たちのまわりで起こりそうな事例を動画で見せてくれました。生徒たちは集中して動画をみて、自分ならどうするか、まわりの人と話し合いをしました。

生徒はデートDVについて初めて知ることが多く、相手を大切にすることだけでなく、自分を大切にすることも大事であることや、困った時には一人で抱え込まず、信頼できる大人に相談することが大切であることが分かった様子でした。



デートDVにも色々な種類の暴力があることを初めて知りました。私もこれからたくさんの人と関わっていくうえで、お互いの境界を大切にし、相手にも気を配りたいです。そして、経済的暴力などで脅されそうになったとき、しっかりと自分の気持ちを言って、まわりの人に相談したいです。それと最近SNSを使うことが多くなってきたので、知らない人を簡単に信用せずに、親と使い方を見直したいと思いました。より日々の生活を慎重に過ごしたいと思いました。（1年 天羽 咲宵）

私は話を聞いて、もし付き合っている人がいたら、その人にいやなことがあれば気軽に言えるような関係が大切だと思いました。なぜなら、いやなことがあったときに「いやだ」と言えなかったら、相手はしてもいいと思ってやめず、どんどん辛くなっていくだけだと思ったからです。また、いやなことを伝えられないときは、信用できる大人や友達に相談することが大切ということもわかりました。これからはもし私が恋愛をしたら、「デートDV防止教室」で教わったことを忘れずに恋愛したいと思いました。（1年 谷井 心玲さん）